

日本獣医生命科学大学
令和7(2025)年度 入学者選抜
一般選抜 (第3回)

数 学

「解答例」

【I】 問1. ア - ③ イ - ④ ウ - ③ エ - ③

問2. オ・カ・キ - ①・①・③ ク・ケ・コ - ①・④・④

問3. サ - ③ シ・ス - ②・③

【II】 問1. ア・イ - ⑥・④ ウ - ⑧ エ - ④ オ - ②

問2. カ - ① キ - ⑧

問3. ク - ⑥ ケ - ⑨ コ - ② サ - ⑤ シ - ④

【III】 問1.

$a_1 = c = \frac{9}{2}$ のとき

$a_1 > 2$ のため、 $a_2 = \frac{9}{2} - 4 = \frac{1}{2}$

$0 \leq a_2 \leq 2$ のため、 $a_3 = -\frac{1}{2} \cdot \frac{1}{2} + \frac{5}{2} = \frac{9}{4}$

$a_3 > 2$ のため、 $a_4 = \frac{9}{4} - 4 = -\frac{7}{4}$

よって、 $a_2 = \frac{1}{2}$ 、 $a_3 = \frac{9}{4}$ 、 $a_4 = -\frac{7}{4}$

問2.

$c < 0$ のとき、任意の正の整数 n について $a_n < 0$ (*) であることを
数学的帰納法によって示す。

(i) $n = 1$ のとき、 $a_1 = c < 0$ となり (*) は成立する。

【Ⅲ】 (ii) $n = k$ ($k = 1, 2, \dots$) のとき、(*) が成り立つと仮定すると、

$$a_k < 0, a_{k+1} = a_k - 4 < 0 \text{ であるから}$$

$n = k + 1$ のときも(*)は成立する。

(i)(ii)よりすべての自然数 n に対して(*)が成立することが示された。

したがって全ての自然数 n に対して $a_{n+1} = a_n - 4$ となり、
数列 $\{a_n\}$ は等差数列であるから、

$$a_n = a_1 - 4(n-1) = -4n + c + 4$$

問3.

数学的帰納法によって、 $1 \leq a_n \leq 2$ (**) を証明する。

(i) $n = 1$ のとき、 $1 \leq a_1 \leq 2$ となり、(**) は成立する。

(ii) $n = k$ ($k = 1, 2, \dots$) のとき、(**) が成り立つと仮定すると、

$$a_{k+1} = -\frac{1}{2}a_k + \frac{1}{2} \text{ である}$$

$$1 \leq a_k \leq 2 \text{ より、} -\frac{1}{2} \cdot 1 + \frac{1}{2} \geq -\frac{1}{2}a_k + \frac{1}{2} \geq -\frac{1}{2} \cdot 2 + \frac{1}{2} \text{ であり、}$$

$$\frac{3}{2} \leq a_{k+1} \leq 2 \text{ となるので、} n = k + 1 \text{ のときも (*) は成立する。}$$

以上(i)(ii)より、すべての自然数 n に対して $-\frac{1}{2}a_{n+1} = a_n + \frac{5}{2}$

すなわち、 $a_{n+1} - \frac{5}{3} = -\frac{1}{2}(a_n - \frac{5}{3})$ が成り立つので、

$$a_n - \frac{5}{3} = \left(-\frac{1}{2}\right)^{n-1} \left(c - \frac{5}{3}\right) \text{ である。}$$

$$\text{よって、} a_n = \frac{5}{3} + \left(c - \frac{5}{3}\right) \left(-\frac{1}{2}\right)^{n-1}$$

【Ⅳ】

問1.

$x = \frac{x+y}{2} + \frac{x-y}{2}$ 、 $y = \frac{x+y}{2} - \frac{x-y}{2}$ と変形できるので、三角関数の加法定理より、

$$\begin{cases} \cos x = \cos\left(\frac{x+y}{2} + \frac{x-y}{2}\right) = \cos\frac{x+y}{2} \cdot \cos\frac{x-y}{2} - \sin\frac{x+y}{2} \cdot \sin\frac{x-y}{2} \\ \cos y = \cos\left(\frac{x+y}{2} - \frac{x-y}{2}\right) = \cos\frac{x+y}{2} \cdot \cos\frac{x-y}{2} + \sin\frac{x+y}{2} \cdot \sin\frac{x-y}{2} \end{cases}$$

差を取って、

$$\cos x - \cos y = -2 \cdot \sin\frac{x+y}{2} \cdot \sin\frac{x-y}{2}$$

【IV】 問2.

$$\begin{aligned}
 f(s) - f(t) &= a(\cos s - \cos t) + (\cos 2s - \cos 2t) \\
 &= -2a \cdot \sin \frac{s+t}{2} \cdot \sin \frac{s-t}{2} - 2 \cdot \sin(s+t) \cdot \sin(s-t) \\
 s+t &= 2 \cdot \frac{s+t}{2}, \quad s-t = 2 \cdot \frac{s-t}{2} \text{と変形すると、2倍角の公式より、} \\
 f(s) - f(t) &= -2a \cdot \sin \frac{s+t}{2} \cdot \sin \frac{s-t}{2} - 2 \cdot \sin \left(2 \cdot \frac{s+t}{2}\right) \cdot \sin \left(2 \cdot \frac{s-t}{2}\right) \\
 &= -2a \cdot \sin \frac{s+t}{2} \cdot \sin \frac{s-t}{2} - 8 \cdot \sin \frac{s+t}{2} \cdot \cos \frac{s+t}{2} \cdot \sin \frac{s-t}{2} \cdot \cos \frac{s-t}{2} \\
 &= -2 \cdot \sin \frac{s+t}{2} \cdot \sin \frac{s-t}{2} \left(a + 4 \cos \frac{s+t}{2} \cdot \cos \frac{s-t}{2} \right) \dots \textcircled{1}
 \end{aligned}$$

一般に、 $-1 \leq \cos \frac{s+t}{2} \cdot \cos \frac{s-t}{2} \leq 1$ であるから、 $a > 4$ のとき、
 $a + 4 \cos \frac{s+t}{2} \cdot \cos \frac{s-t}{2} \geq a - 4 > 0$

したがって、 $f(s) \neq f(t)$ であるとき、 $\textcircled{1}$ より、

$$\{f(s) - f(t)\} \sin \frac{s+t}{2} \cdot \sin \frac{s-t}{2} = -2 \left(\sin \frac{s+t}{2} \right)^2 \left(\sin \frac{s-t}{2} \right)^2 \left(a + 4 \cos \frac{s+t}{2} \cdot \cos \frac{s-t}{2} \right) < 0$$

問3.

$$s - t = \frac{2}{3}\pi \text{のとき、}\textcircled{1}\text{より、} f(s) - f(t) = -\sqrt{3} \cdot \sin \left(t + \frac{\pi}{3} \right) \left\{ a + 2 \cos \left(t + \frac{\pi}{3} \right) \right\}$$

したがって、 $f(s) = f(t)$ のとき、

$$\begin{cases} \sin \left(t + \frac{\pi}{3} \right) = 0 & \dots \textcircled{2} \text{または、} \\ \cos \left(t + \frac{\pi}{3} \right) = -\frac{a}{2} & \dots \textcircled{3} \end{cases}$$

$0 \leq t < 2\pi$ 、 $\textcircled{2}$ より、 $t + \frac{\pi}{3} = \pi, 2\pi$ 、すなわち、 $t = \frac{2}{3}\pi, \frac{5}{3}\pi$

$\textcircled{3}$ を満たす t について考えると、

- (i) $a > 2$ のとき、 t は存在しない
- (ii) $a = 2$ のとき、 $t + \frac{\pi}{3} = \pi \quad \therefore t = \frac{2}{3}\pi$ これは $\textcircled{2}$ の解に含まれる。
- (iii) $0 < a < 2$ のとき、

$$t + \frac{\pi}{3} = \alpha, \quad \beta \left(\frac{\pi}{2} < \alpha < \pi < \beta < \frac{3}{2}\pi, \quad \alpha + \beta = 2\pi \right)$$

これは $\textcircled{2}$ の解と重複しない。

以上より、すべての t の値の和を S とすると、

$$\begin{cases} a \geq 2 \text{ のとき、} S = \frac{2}{3}\pi + \frac{5}{3}\pi = \frac{7}{3}\pi \\ 0 < a < 2 \text{ のとき、} S = \frac{2}{3}\pi + \frac{5}{3}\pi + \alpha - \frac{\pi}{3} + \beta - \frac{\pi}{3} = \frac{11}{3}\pi \end{cases}$$

よって、 $a \geq 2$ のとき $\frac{7}{3}\pi$ 、 $0 < a < 2$ のとき $\frac{11}{3}\pi$